

ブラザー・コーンさんが公表した男性乳がん 遺伝が強く関係

日本人女性で一番多いがんは乳がんです。女性の8人に1人が、生涯に一度は乳がんを経験します。

男性デュオ「バブルガム・ブラザーズ」のブラザー・コーンさん（67）が8月、左胸のしこりに気づき、病院で検査の結果、乳がんと診断されたと自身の交流サイト（SNS）で公表しました。男性の乳がんとは聞きなれない病気ですが、診断や治療はどうなのでしょう。

結論から先に申し上げますと、基本的には男性乳がんの診断や治療は女性乳がんと同じで、予後も大きくは変わりません。

ただ、発症する頻度は女性と比べ大きく異なります。女性の150分の1程度で、日本全体で年間700人程度の男性が発症していると推定されます。

発症年齢は、女性乳がんは40代と60代に多くなっていますが、男性乳がんは70代以降に多くなります。現在、女性の乳がんと同様に男性乳がんも増えています。

■ なぜ男性に？ 症状と特徴

なぜ男性にも乳がんができるのか。男性乳がんの症状や特徴を見てみましょう。

乳腺は、男女ともに同じようにまだ母親の子宮内にいる時期（胎児期）にできます。女性は思春期に女性ホルモンの影響を受け、乳管や乳汁をつくる細胞が増えますが、男性では増加しません。ただ、大人になっても乳頭周辺にごく一部乳腺組織が残っています。この残存乳腺組織から男性乳がんは発生します。

男性乳がんは、乳がんを含めがんの家系を持つ人が多いといわれています。男性乳がん患者の2割に親子・兄弟姉妹に乳がん経験者がいます。つまり、遺伝が強く関係します。

「遺伝性乳がん卵巣がん症候群（HBOC）」の原因の一つである「BRCA2」という遺伝子があります。男性はこの「BRCA2」に変異があると80倍、乳がんになりやすく、前立腺がんや膵（すい）がんのリスクも高くなります。

健康保険承認されていますので、男性乳がんの患者はHBOC検査を受けることをお勧めします。

男性乳がんで多い症状は、乳頭直下の痛みのない腫瘍（しゅりゅう）（しこり）、乳頭の変形、乳頭からの分泌物です。男性は女性ほど乳腺（あるいは乳房）が大きくないため、腫瘍が小さい時期に気づきやすく、約半数が2センチ以下で見つかります。

しかし、放置するとステージ（がんの臨床病期）が進み、全般的にみると男性乳がん患者のステージは女性患者よりも少し進んでいます。

治療は手術、放射線治療、ホルモン治療、抗がん剤治療など女性乳がん患者と同様にステージに応じて行います。手術は女性の小さな腫瘍では、ほとんどが乳房部分切除ですが、男性の場合、乳房が小さく乳頭直下にかんができるため、大部分が乳頭を含む乳房全切除になります。

男性乳がんは、ホルモン感受性が高いタイプのがん（ルミナルタイプ）が多く、術後の予防的なホルモン治療は予後改善に重要です。

ただ、ホルモン治療では、ほてりやのぼせ、性機能障害が起こることがあり、男性では長く続けられる人が少なくなっています。

男性が乳がんになって困ることに、情報が少ないことと乳腺外来を受診したときの「アウェー感」があります。しかし乳がんの治療や予後に男女の差はありません。気になる症状があれば、きちんと受診しましょう。